

身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすることの指導 ～身近なものの絵カードを使った事例～			
学部・教科	小学部・国語科	事例コード	2202
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部4学年（4名）</li> <li>人とのやりとりでは音声言語を使って自分の思いや経験したことを単語もしくは2～3語文で伝えようとするができる。しかし、発音の不明瞭さがあることや伝えたいことはイメージしていても名前が分からないことにより、うまく伝えられない場合がある。</li> <li>身近なものの名前について、分かるものは多いが、曖昧に理解していたり言葉と概念が一致していなかったりするものがある。</li> </ul>		
単元(題材)名	『もののなまえ』		
学習指導要領の内容	国語科／小学部2段階 〔知識及び技能〕ア（イ）（ウ） 〔思考力、判断力、表現力等〕A聞くこと・話すことーア		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
* 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。	日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。【〔知〕ア（イ）】 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れることができる。【〔知〕ア（ウ）】	身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすることができる。【〔思〕Aア】	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。【小2段階目標ウ】
単元(題材)の計画	○ 身近なものの絵カードの名称を声に出して言ったり、仲間分けしたりする。 (1) 絵カードが示すものの名称を考えたり、平仮名表記を読んだりする。 (2) 絵カードを同じ仲間になるように分ける。 (3) ランダムに並んだ絵カードを決められた仲間になるように選び分ける。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な5つの仲間に分かれる物や動物について絵カードを提示し、一つずつ名称を児童らと確認し、平仮名で表記した。</li> <li>1文字ずつ読み方を確認し、平仮名に注目できるようにした。分かる文字に注目して読んだり、正しい発音で読もうとしたりすることができた。</li> <li>2種類の仲間分けから始め、「やさいのなかま」「どうぶつのなかま」になるように絵カードを黒板に貼り分ける活動をした。「畑でとれる」「ごはんを食べる」等のヒントも用いながら仲間分けができるようにした。</li> <li>全てのカードの名称と仲間を学習した後、カードをランダムに床に並べ黒板に1種類ずつ仲間になるように集めた。友達の様子やすでに集まっているカードを見て仲間に分けることができた。</li> <li>集まったカードを一緒に読んで平仮名にも注目できるようにした。1文字ずつではあるが平仮名にも目を向けて名称を言うことができた児童もいた。</li> </ul>		



絵カード（1枚 A5 の大きさ）  
 野菜、果物、動物、乗り物、お菓子などを各7～8枚